

アクティブスチューデント応援奨学金活動報告書

国際経営学部 国際経営学科 4年

立花 駿

1.はじめに

この奨学金に応募当初、私は、「台湾への短期中国語語学留学を通しての中国語能力向上」を活動テーマとしておりました。しかし、コロナ禍の国際的な収束が見えず、また渡台に際し、取得の必須であった台湾政府公認の華語文留学奨学金に落選してしまったことから、フィリピンのバギオにおける英語語学留学へと計画を変更しました。

しかしながら、より台湾への理解を深めようと参加をした台湾祭実行委員会のもとのボランティア活動からも多くを学ばせていただきました。こちらについても紹介をしながら、フィリピンのバギオ、PINES International School での2か月間の学びについて、私の国際経営学部アクティブスチューデントとしての活動を報告します。

2.台湾祭と華語文留学奨学金について、中国語特殊講義への参加**2-1 目的**

当初の計画では台湾への3か月ほどの中国語語学留学を目指しており、国際経営学部卒業後グローバルな場で働きたいという目標を掲げて、以下3つの成果の獲得を目指していました。まず1つ目に3年間国際経営学部にて中国語を学んだうえで感じた中国語コミュニケーション能力を補うべく、十分な中国語語学能力の習得を、2つ目にゼミ活動（卒業論文）への応用、3つ目に中国語を学んだ1期生としての学部への還元をしたいと思っていました。

そのため活動の開始に当たり、いまいちど台湾並びに中華文化への理解を深めたいという思いから台湾祭へのボランティア参加をさせて頂きました。台湾祭実行委員会は365日の台湾夜市を日本で。と掲げ、台湾夜市屋台の味を広めるという目的の下、東京タワーや横浜赤レンガ倉庫を始め観光地にて1か月ほどの間屋台を開いています。鸡排（ジーバイ）や牛肉面（ニューロウミエン）、豆花（トウファ）など台湾夜市に必ずある小吃（シャオチー、軽食のこと）が軒をつらね、実際に台湾から持ってきた赤い提灯や大きなパイナップルのオブジェなど、お祭り全体から台湾への愛を感じました。この活動は2011年9月、恵比寿ガーデンプレイスにて中華民国建国100周年を祝うと共に始まりました。台湾の観光・文化の紹介、東日本大震災被災者への支援を目的に企画・開催され、その後東京都内やアウトレットモール近郊などで、賑やかな人で溢れる台湾夜市のような光景を再現しています。現在、台北101様をはじめ、農業委員会様など台湾の行政や企業の協力のもとその規模を拡大し、日本における台湾夜市の実現と日台友好に貢献をしています。実

際に私の参加した東京タワー台湾祭 21-22 においては、台北駐日経済文化代表処副大使の方もご臨席されて、東京タワーを中華民国国旗にイメージした赤・青・白にライトアップする点灯式が行われていました。

2-2 台湾祭と中国語特殊講義への参加、華語文留学奨学金の落選

私がこの活動に出会ったのは、初の渡台後、もう一度台湾の夜市の味を食べたいと調べていた中でした。コロナ禍活動の延期も重なりましたが、東京タワー台湾祭 21-22 WINTER、東京タワー台湾祭 2022GW にてボランティアとして参加、再び台湾の夜市の味に出会えたことに感激すると共に活動の目的である、台湾の食文化を通じて日本と台湾の橋渡しとなる、という考えに大いに共感をしました。台湾の小吃で人々が笑顔になる瞬間を間近で見ると同時に、赤い提灯とともに写真を撮り、思い出とする場面に立ち会いました。

これらの活動と合わせて 4 年次には田先生・李先生の下で特殊講義 C (中国語中上級) のクラスを聴講し、今の中国の状況に即した内容とともに中国語運用能力を高めました。また、ゼミの申淑子教授、台湾祭実行委員会渡辺様の推薦のもと華語文留学奨学金にも応募をしましたが、残念ながら援助を受けることはできませんでした。



3. フィリピンのバギオ、PINES International School における 2 か月間の短期留学について

3-1 留学先決定に至るまでの背景

台湾への留学を断念せざるを得なくなった状況より、私はグローバル人としてより英語に自信をつけるべく奨学金の用途を再考しました。結果、かねてより英語教育としてのリーズナブルかつスパルタな留学が有名であったフィリピンへの留学を決意しました。学部 1 年次のグローバルスタディーズ I における短期留学先のホストマザーがフィリピン出身



写真 1 PINES International School

であったこともその決断を後押ししてくれました。思い返せば当時の私は、フィリピンの国民性として、勤勉かつ日本と同じく第 2 外国語として英語を習いながらも、その高い運用能力を誇る点に魅かれていたのだと思います。さらに近年フィリピン国内においても、セブ島が一番にその留学先の候補に挙がりますが、私はより英語に集中したいという思いから

ルソン島北部、マニラから 6~8 時間バスで移動したところ、バギオへの就学を決めました。そしてその中でも元祖スパルタ教育と言われ、日本人比率が低く、ちょうどコロナ禍の閉校から元に戻りつつあった PINES International School を選びました。

3-2 改めての目的

将来海外で働く事を一番に見据え、この度の留学では「伝えられるコミュニケーション手段としての英語」の獲得を一番の目的としました。日本生まれ、日本育ちの私のジャパングリッシュが、社会人という責任を負う立場になった時に通用するものとするためです。国際経営学部の授業の 7 割は英語で行われ、決して日常的に触れていないわけではないものの、長期間、英語漬けの環境でどこまで変化、学びを得られるか、私自身も楽しみにしていました。

3-3 語学学校での毎日

図1 スケジュール例

時刻	スケジュール	コンテンツ	授業形態
AM6:30	起床		
7:20~8:00	朝食		
8:10~8:55	Think out loud	Speaking	1on1
9:05~9:50	Intermediate reading	Reading	1on1
10:00~10:45	Situational English	Speaking	1on1
10:55~11:40	ETL (unit1-10)	Listening	Group
11:50~PM12:35	ETL (unit1-10)	Listening	Group
PM12:35~13:35	昼食		
13:35~14:20	Idiom guide 2	Reading	1on1
14:30~15:15	Writing in Practice	Writing	1on1
15:25~17:40	休憩		
17:40~18:20	夕食		
19:00~22:00	ナイトクラス	All	Group
22:00~23:30	シャワー、1日の復習		
PM23:30	就寝		

3-3-1 勉強について

語学学校での勉強については、この活動においての最大のポイントであったため、しっかりと報告したいと思います。フィリピンのバギオ留学における最大の特徴はマンツーマン授業と朝から晩までのスパルタ制度であり、私も複数あるコースの中でも特に 1on1 の時間が多く、英語を多く話すことができる Intensive ESL コースを選択していました。45 分の授業を 1 日に 6~7 コマこなすという時間割に加え、夜の自習の時間も割り当てられた日々は英語学習に集中するにふさわしい環境でした。机一つを先生と向かい合って座り、英語のみで授業が行われるというスタイルは、否が応でも自身の言葉で説明せざるを得なく、毎回の授業時間はあっという間に過ぎていきました。



写真 2 学校内の English-only policy

特に印象的であった授業の 1 つに、英語でドラマを鑑賞するというものがありました。もちろん字幕は英語で、たびたび先生が動画を止めては内容理解やセリフの意味について尋ねてくるという形式でした。私は、初日の 45 分の授業ではたった 9 分しかドラマを進めることができず、1 ヶ月後には字幕なしでドラマを見ることができるようにするという先生の言葉に疑問を持っていました。しかし、先生自身も英語学習に苦しむ学生の立場を理解しようと、コロナ禍に日本語学習に取り組み、様々な学習方法を試した結果、動画を通した“Familiarization”が最も効率的であると感じたそうです。それでも、1 セリフごとに動画を止めてしまい、挙句人物のジェスチャーのみからしか判断できず、肩を落として教室を出たことをよく覚えています。

それでも継続は力なり、という言葉の通りでした。ある日を境に耳が慣れ、わからない言葉の推測もある程度できるようになりました。よくネイティブスピーカーのように英語を話すためには、彼らのように英語で物事を考えることが大事と言いますが、私はそれ以前に知識としてのステップを挟むことでその理解が容易になると考えます。例えばイディオムの授業は、同じ学校で学ぶ生徒間でも興味の有無が分かれましたが、私は英語を母語とする人々の考えを深く知ることができるという点で有意義だと感じていました。第 2 外国語として英語を学んできたフィリピンの先生はその点を深く把握しており、イディオムと文化的背景について併せて解説してくれたことがその要因だと思います。例えば、make heads or tails(理解する)という慣用句も、コインの裏表で物事を決めたりするドラマのワンシーンから understand や help you decide が同義の意味に当たると解説してくれました。一度知識としてとらえ直すと、更なる言い換えがドラマ中に登場しても、そのニュアンスを読み取ることに大いに役立ちました。最終的には授業の時間内で、ドラマを 30 分



写真3 Perfect attendance と成績の表彰

弱見続けることができるようになり、成長を感じました。とりわけ入校時には10段階のレベル分け中、4.78であったスピーキングは1か月後のテストで、6.43まで改善しており、その他3技能（リーディング、ライティング、リスニング）を含んだ結果も校内2位の成績を収めるまでに至りました。テストは1か月毎に行われ、大変でしたが、自身の実力を客観的に見ることのできる良い機会でした。

3-3-2 生活について

語学学校では寮にて生活をしていました。韓国人や台湾人のルームメイトと部屋をシェアする生活は、英語を用いなければ意思疎通を図ることができず、わからない言葉はすぐに調べなければならなかった一方、同じく英語を学ぶもの同士、とても良い練習の機会になりました。もちろん国際経営学部にての学びでも英語を使いますが、より生活の中での“生きた英語”を実感したのは、彼らとの会話の中であったと思います。最終的には彼らと海に旅行に行くまでに英語力を成長させ、仲も深めることができました。

基本的に平日は22時が門限であり、週に5日間は語学学校にてひたすら英語を学ぶ生活だった一方、週末にはその外出制限も解かれ、現地の生活を満喫することができました。バギオは別名サマーキャピタルとも呼ばれ、学校から歩いて行くことのできる距離にThe Mansion House というかつての大統領の夏の別荘や Ride Park という乗馬を楽しむことのできる公園もありました。フィリピン全土においても屈指の治安の良さから現地タクシー等を利用しても、乗車時にメーターさえ確認していれば余分にお金を取られてしまうこともありません。語学学校の先生の中にもその安全面から、バギオを出たことのない人も多くいました。語学学校で知り合った友人たちと町に繰り出し、美術館や町で一番大きなショッピングセンターである SM モール、レストランで週末を楽しみました。

3-3-2 日本との違いについて感じたこと

現地での生活に加え、授業の中でもトピックとして政治や歴史、文化について扱うことが多く、やはり外国人として暮らす中で感じたものが多かったので、こちらに記したいと思います。

まずフィリピンはカトリックの国として知られています。第二次世界大戦後のアメリカの影響からその文化が至る所に影響しており、バギオにも Camp John Hey という元米軍基地が存在していました。その宗教上の理由より、妊婦の中絶が違法であり、これが高い出生率や若い母親の増加につながっていることを知りました。また、フィリピン国家統計

局によるとフィリピンの世帯収入の平均は、307,190 ペソ（2021年1月～12月）です。¹これは1月当たり約25,600ペソ（日本円で64,000円）になります。レストランのウェ이터やガードマン、学校の先生の給与などを耳にする機会もあり、その差に少なからずショックを受けてしまったのも事実です。

また、余談になりますが、帰路に就くにあたり2つの台風との直撃が予想されていました。バギオからマニラまで、マニラから日本までと道中一人であり、万が一に飛行機が欠航となった場合に備えての情報収集に悩まされていた私に先生は、“don't think how much you suffered from that experience, but the lesson you have learned from it”との言葉をくれました。物事を悲観することなく、どのように乗り越えていくべきか、何を経験から学ぶか、身をもって感じました。留学に当たりエージェントこそ利用しましたが、自身の力で物事を切り抜ける力が身についたと思います。

4. おしまいに

当初の「台湾への短期中国語語学留学を通しての中国語能力向上」とは大きく計画が異なり、「台湾祭ボランティア参加とフィリピンのバギオでの短期英語留学」となりましたが、学外に出た経験は、改めて将来国際的な場で働きたいという想いを強くしました。大学卒業後は、グローバル展開を進めている企業に入社予定であり、まとまった時間と共に英語と向き合うことができたことは、今後の人生で必ず力になるだろうと思っています。コロナ禍、教室やオンライン授業に留まることが多かった国際経営学部での学びを実際に自身の目で確認し、感じることができました。結びに当たり、国際経営学部関係者の皆様を始め、台湾祭実行委員会様、Pines international school の関係者の皆様、留学先で出会ったすべての方々に心より感謝申し上げます。

¹ [Philippine Statistics Authority | Republic of the Philippines \(psa.gov.ph\)](https://psa.gov.ph)